

## 「世界にとどけ 東北の声」 震災遺児 逆境を乗り越えて夢の実現へ

### 中国・大連で行われる夏季ダボス会議にて世界のトップリーダーと交流

2011年8月29日

一般財団法人 教育支援グローバル基金

一般財団法人教育支援グローバル基金は、この度、東日本大震災により被災した若者のリーダーシップ教育支援事業「ビヨンドトゥモロー／BEYOND Tomorrow」の一環として、中国・大連にて2011年9月14日～16日に開催される夏季ダボス会議に、東北大震災により被災し親を亡くした学生を含む7名の被災学生が出席し、世界のトップリーダーと交流を深める『夏季ダボス会議ジュニア・リーダーズ・プログラム』を実施いたします。

#### ◆夏季ダボス会議ジュニア・リーダーズ・プログラム 概要◆

主催： 一般財団法人教育支援グローバル基金

参加者： 東日本震災により被災した、孤児・遺児を含む学生7名。夏季ダボス会議に参加し、被災地からのメッセージを世界に発信するとともに国際的な経験を積むことへの意欲・志がある高校生・大学生

内容： 夏季ダボス会議（9月14日～16日、中国・大連市開催）に参加し、世界各国から集うトップリーダーと交流し、国際的な体験を積む。会期中は、公式・非公式な会合で東北の状況について発信すると共に、世界から集うトップクラスの科学者・起業家・ジャーナリストなどとの対話プログラムに参加する。また、大連市の市民・学生や四川大地震の孤児・遺児との交流を通して東北の状況を伝え、日中間の相互理解に貢献する。また、仙台育英学園高等学校獅子太鼓部が、夏季ダボス会議内で演奏を披露予定

#### ◆参加者プロフィール◆

公募・学校推薦を通じて参加者を募り、厳正な選考を経て、参加者を決定させていただきました。参加学生のプロフィールは以下の通りです。

菅原 彩加（仙台育英学園高等学校 1年生）

- ・津波によって母、祖母が亡くなり、曾祖母は未だ行方不明。自らも津波に流され負傷し、二晩、自宅屋根の上で救助を待った。
- ・高校では特別進学コースに在籍し、寮生活を送りながら大学進学に備えている。今年の夏休みはカナダで短期語学研修に参加し、英語を学んだ。「中国でのダボス会議でも、世界中の同世代の人たちや同じような気持ちを持った人たちと、たくさん交流したい。」

日下 マリア（仙台育英学園高等学校 1年生）

- ・津波によって父が死亡。東日本大地震・津波遺児の高校生代表として米国ニューヨーク市を訪れ、NY9.11同時多発テロ遺児、ハリケーンカトリーナ災害遺児らとともに、東北の津波で親を亡くした遺児の現状やこれ

からの心のケアの必要性を世界に訴えた経験を持つ。

・「自分以上にまだまだ大変な人がいる。その人の分まで頑張りたい。いろんな国の人と交流を持って、いろんな人と話をしたい。」

梁田 麻佳（岩手県立盛岡第一高等学校 1年生）

- 震災発生時、釜石市の中学3年生で、学校にいた。津波に際して彼女を始めとし在校生たちが率先避難者として周囲の小学校や地域住民の避難をリードし、多数の人命を救うという稀な体験をした。
- 震災後、岩手県屈指の進学校である盛岡第一高校に進学、盛岡市内で下宿生活を送っている。今回の震災を語り継ぐことで地震や津波の被害者をひとりでも減らすことが人生のミッションと考え、将来は俳優になりたいと考えている。

加藤 英介（東陵高等学校 3年生）

- 被災度の最も高い地域の一つである気仙沼に居住し、地震発生直後に恐怖の中で避難し、一命をとりとめた。また、両親の営むホテルは避難所として提供され、地域に貢献したが、経営的には大打撃を受ける。
- 被災者及び復旧・復興活動従事者と現地で密にコミュニケーションを取っており、そこで学んだことを世界に発信したい。また、被災地域の復興と雇用確保に関心があり、大学での研究や地域でのフィールドワークを通して問題解決の道を探りたい。

大越 護（福島大学経済経営学類 2年生）

- 震災時及び現在も福島原発から70km圏内に居住及び通学。県内では多くの農産・水産物や畜産物が出荷停止となっており、その影響下での生活を強いられている。
- 原発事故の恐怖を経験し続けている住民として、エネルギー問題に対して世界にメッセージを発信したい。エネルギー政策のあり方について、包括的な議論が求められている状況を世界のリーダーたちに伝えたい。

志田 潤平（岩手大学工学部 1年生）

- 津波で家が全壊。両親は共に失職し、現在も仮設住宅で生活。津波で複数の友人を失う。
- 将来的には都市計画を学び、県庁の都市計画課で働きたい。災害に備えた安心な街づくりを初めとした被災地の復興に従事していきたい。「岩手県盛岡市ですら被災地の現状を分かっておらず、海外はなおさらなので、被災地の現状を伝えたい。」

近藤 一樹（東北大学経済学部 3年生）

- 震災で実家が全壊し、家族の生活の拠点が知人のいる盛岡に移動
- 将来は地域活性化に向けて、地域の特性を踏まえて活動していきたい。グローバルとローカルの橋渡しといった役割を担いたいと考えている。「震災への援助に関する感謝を伝えたい。また一方で、短期的なブームとして取り扱わないで欲しい。今年だけでなく、より長期的な問題として捉えて欲しい。」

#### ◆夏季ダボス会議とは◆

正式名称は、Annual Meeting of the New Champions。スイス・ジュネーブに本部をもつ世界経済フォーラムが主催する、年に一度の国際プログラム。政治家・経営者・ジャーナリスト・芸術家・俳優など世界中で活躍

するリーダーが集い、新しい時代を切り開くために求められるアクションを様々な観点から議論し、交流を深めることを目的とする。2007年の初回開催以来、中国の温家宝首相が出席し、世界中から集うリーダーとの対話の機会をもつ場としても知られる。(詳細はURLを参照：<http://www.weforum.org/node/97933>)

【日本からの参加者(例)】 (50音順、敬称略)

小島順彦(三菱商事株式会社 取締役会長)、竹中平蔵(慶應義塾大学教授 グローバルセキュリティ研究所所長)  
宮内義彦(オリックス株式会社 代表執行役会長・グループCEO)など数十名が参加。

#### ◆夏季ダボス会議ジュニア・リーダーズ・プログラム アドバイザリー・ボードについて◆

本プログラムの効果的な企画・運営のために、下記の方々にアドバイザーとして専門の見地からのご助言を頂戴しております。(50音順、敬称略)

石倉洋子(慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授)、齋藤 ウィリアム 浩幸(Intecur, K.K. 創業者兼最高経営責任者)、田中良和(グリー株式会社 代表取締役社長)、土井香苗(弁護士、ヒューマン・ライツ・ウォッチ日本代表)、道傳愛子(日本放送協会解説委員)

#### ◆ご支援いただいた企業・団体◆ (50音順)

協力団体

あしなが育英会、四川省教育国際交流協会、世界経済フォーラム

支援企業

オグルヴィ・アンド・メイザー・ジャパン株式会社、株式会社インターリテラシー、  
グランド ハイアット 東京、フェデックス キンコーズ・ジャパン株式会社、三菱重工業株式会社、  
六本木ヒルズクラブ、ロート製薬株式会社、CLSA

#### ◆BEYOND Tomorrow/ビヨンドトゥモローとは◆

BEYOND Tomorrow は、東日本大震災における震災孤児や震災遺児をはじめとした被災児童に対して次世代を担うリーダーやスペシャリストとなる人材となるための支援プログラムを提供する教育支援事業です(運営：一般財団法人 教育支援グローバル基金)。当事業は、未来を担う若者が今回の災害によって教育機会を失われることのないよう、奨学金提供ならびに国内外のトップクラスの教育機関との提携による就学支援・リーダーシップ教育などの各種プログラムを提供し、次世代を担う人材輩出の支援を行います。

◆本基金に関するより詳細な情報は下記にて提供しております。

ウェブサイト：<http://www.beyond-tomorrow.org>

【関係者問い合わせ先】一般財団法人教育支援グローバル基金  
担当：阪本 TEL：090-6964-3033  
e-mail：[info@beyond-tomorrow.org](mailto:info@beyond-tomorrow.org)

以上

\*\*\* 事業名「ビヨンドトゥモロー/BEYOND Tomorrow」には、「明日を超えて」という訳の通り、中長期的な視野から未来を担う人材の育成を願う意味がこめられています。\*\*\*